

家庭総合	単位数	2単位（70時間）
	学年・学級	第3学年 2～7組

1. 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技術を生かし，家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育てる。 3. 家族や社会との共生を目指し，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書，副教材等	東京書籍「家庭総合」、「学習ノート」

2. 学習計画および評価方法等 評価の観点のポイント… a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項等）	考查範囲	評価の観点のポイント							
						a	b	c	d	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1学期	4	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服を作る 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し，組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味を知る。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し，被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○平面構成と立体構成の違いを知る。 ○正しい採寸方法を知り，自分のサイズを知る。 ○被服製作の基本的事項を確認し，自分に合った被服の製作ができる。 ○布を使った伝統的な生活の工夫を知り，現代に生かす。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。	・見本を用いた実験・実習や視聴覚教材を活用する。 ・中学校での学習状況を把握する。 ・被服製作については，できるだけ個人の創意を取り入れる部分を設ける。	1学期中間考査	○	○		○	・衣生活に関心を持ち，人間と被服，気候と被服の関わりを考えようとしている。 ・被服材料，被服構成，縫製技術に関心を持ち，被服製作に取り組もうとしている。 ・衣生活の文化や持続可能な衣生活について考えようとしている。	・各ライフステージに適した衣服の役割，適切な着装，衣生活の管理について考えを深めている。 ・被服材料の性能改善と着心地，安全に配慮した被服，衣生活の文化の伝承について考え，まとめたり，発表したりしている。 ・衣服の購入から廃棄，環境との関わりなど，持続可能な衣食生活について考え，工夫している。	・健康と安全に配慮した被服計画を立てることができる。 ・乳幼児や高齢者の着やすい被服など，各ライフステージに応じて充実した衣生活を営むための被服製作ができる。	・着装，被服材料，被服構成，被服製作，被服管理などについて科学的に理解している。 ・資源の有効活用の視点から，購入，活用，手入れ，保管，再利用，廃棄を考えた持続可能な衣生活の必要性を理解している。 ・安全と環境に配慮した衣生活や現代の衣生活の課題を認識し，その知識を身につけている。
	5					○	○		○				
	6					○	○	○	○				
	7					○	○	○	○				
[課題・提出物等] ワークシート，学習ノート，実験・実習レポートなど						[第1学期の評価方法] 定期考査、課題・提出物、授業態度							
2学期	9	第5章 経済生活を営む 1 職業生活を設計する 2 計画的に使う 3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4 現代の消費社会 5 消費者の権利と責任 6 これからの消費生活と環境	○高校卒業後について，経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し，ライフステージごとのポイントを知る。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え，契約や消費者信用，多重債務問題などを学習し，消費者として適切な判断ができるようにする。 ○消費者基本法を通して，消費者には権利と責任があることを理解する。 ○消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解し，消費者市民社会の意義を踏まえて行動できるようになる。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・クレジット払い等のリスクを実感させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を集めさせる。 ・持続可能な社会になるために自分でできることを考えさせる。 ・第9章と関連させる。	2学期期末考査	○	○		○	・生涯を見通した生活における経済計画について関心を持ち，自立した消費者として行動しようとしている。 ・消費生活における課題や消費者の権利と責任について理2学期期末考2学期期末考2学期期末考解しようとする。 ・環境保全に対する社会全体の取り組みや見通しの必要性から，持続可能な社会に向けた消費行動をしようとしている。 ・適切な情報の取捨選択や活用に関心を持ち，消費行動における意思決定の重要性や消費者市民社会について考えようとしている。 ・生涯を見通した自己の生活設計について関心を持ち，自分の生活をマネジメントすることについて考えようとしている。	・経済的自立と職業について考えを深めている。 ・多発する消費者問題について，その原因と対策について具体的な事例を通して考え，まとめたり，発表したりしている。 ・消費行動と環境との関わりについて，自身の生活と関連させて課題を見出し，生活の質を向上させるためにはどのような消費生活を築けばよいかを考え，工夫している。 ・消費行動における意思決定について，具体的な事例を踏まえて主体的に考え，適切に判断することができる。 ・自己実現を目指して，生活設計を考え，まとめたり，発表したりしている。	・家庭の経済生活の諸課題の具体的な事例を収集・整理したり，生涯を見通した経済計画を立てることができる。 ・自立した消費者として，多様な情報の中から，適切な情報を取捨選択し，目的に応じて活用する技術を身につけている。 ・身近な生活の中から，環境に関わる生活の仕方を点検し，生活様式の見直しや環境に調和した生活など，自分の消費行動を検証することができる。	・生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 ・家庭経済と国民経済の関わり，家計の管理や経済計画の重要性を理解している。 ・消費者問題の現状や消費者の権利と責任について理解している。 ・環境問題に配慮したグリーンコンシューマーとなることが求められていることを理解し，家庭生活と資源・環境との関わりについて，自立した消費者になるための知識を身につけている。 ・消費行動における意思決定の重要性や消費者市民社会の意義を理解している。 ・生活設計の意義や生活設計に必要な要素など，生活設計を行うために必要な知識を身につけている。
	10					○		○					
	11					○	○	○	○				
12	第9章 生活を設計する 生涯を見通す	○	○	○	○								
[課題・提出物等] ワークシート，学習ノート，実験・実習レポートなど						[2学期の評価方法] 1学期に準ずる							

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項等）	考查範囲	評価の観点のポイント							
						a	b	c	d	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
3 学期	1	第8章 住生活をつくる 1 住生活について考える 2 住生活の計画と選択 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	○住居の機能を考える。 ○平面図の基礎知識を習得し、間取りや動線について理解する。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。 ○バリアフリーの考え方を理解する。 ○気候風土に応じた住居や住まい方の工夫、住様式があることを理解する。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。	・住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。	1 学期 期末 考查	○	○		○	・生涯を見通して、住居の機能や住空間の計画などについて関心を持ち、よりよい住生活について考えようとしている。 ・安全で快適な住まい方や住環境について考えようとしている。 ・先人の知恵を生かした快適な住生活や住まい方について考えようとしている。	・ライフスタイルや価値観に応じた、生命と健康を守るための暮らしの在り方について考え、工夫している。 ・家庭内事故や防災など、安全な住環境の課題について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。 ・地球環境に配慮した快適な住環境や、自然環境や社会環境と調和した住生活について考え、まとめたり、発表したりしている。	・よりよい居住環境を整備するために必要な平面図を読み取ることができる。 ・家族構成やライフステージ、生活価値観に応じた住空間の計画ができる。 ・健康や安全に配慮した室内整備や住環境について情報を収集・整理し、検討することができる。	・住居の機能、住空間の計画、住環境など、安全で快適な住まいについて科学的に理解している。 ・安全と環境に配慮した住環境や現代の住生活の課題を認識し、その知識を身につけている。 ・住居と気候・風土・生活の関わり、住宅形態や住宅政策について理解している。
	○					○	○	○					
[課題・提出物等] ワークシート、学習ノート、実験・実習レポートなど						[年間の学習状況の評価] 1～3学期の評価を踏まえて、総合的に評価する。							

